

「日本で最も美しい村」連合 プロジェクト



成果報告

事務局とプロボノ共同提案から実践へ

2023年4月8日

議題



－ 過程 －

- プロジェクトの要件
- チームの取り組み

－ 成果 －

- 課題解決のStep 1～3
- ワークショップ設計
- Web要件
- 自発・自律・持続サイクル

議題



－ 過程 －

- プロジェクトの要件
- チームの取り組み

－ 成果 －

- 課題解決のStep 1～3
- ワークショップ設計
- Web要件
- 自発・自律・持続サイクル

プロジェクトの要件



素晴らしい地域資源、美しい景観を持つ、日本の町村地域——。それぞれが誇りを持ち、地域を作るために「日本で最も美しい村連合」は活動しています。「世界で最も美しい村」連合に加盟し、各国とも連携。

一方、61の加盟自治体で、具体的な活動が定着していないところが多い。首長の交代、町村担当者の交代のタイミングで脱退となることもある。



- 「日本で最も美しい村」の活動に関する、加盟自治体の課題を明確にする。
- 「日本で最も美しい村」の活動を、加盟自治体に定着化させる方法を検討する。
- 「日本で最も美しい村」が1～2年後に取り組む活動を提案する。

灰谷 彰浩 (MK)

加藤 弓子 (MK)

向井孝暢 (事務局)

川口 高史 (AD)

伊藤 聡 (MK)

浅田 陽子 (事務局)

山口 奈々 (MK)

塚原 宏樹 (PM)



議題



－ 過程 －

- プロジェクトの要件

- チームの取り組み

－ 成果 －

- 課題解決のStep 1～3
- ワークショップ設計
- Web要件
- 自発・自律・持続サイクル

現状分析：ヒアリング概要：当たりをつけにいった仮説課題

仮説課題（ヒアリング実施前におけるチーム仮説）		
ありたい姿・ビジョン	①	連合としての「ありたい姿」が明確ではなく、そこに至る道筋も明らかになっていない また、連合のありたい姿に、町村地域のニーズや期待が反映しきれていない
ブランド・軸	②	「日本で最も美しい村連合」としての「ブランド」や「軸」が明確でない
町村地域のニーズ	③	町村地域にとっての「連合加盟のメリット」が不明瞭であり、伝えられてもいない また、加盟後、自治体は何をしてどこを目指すかについても不明瞭
住民の巻き込み	④	町村地域の担当者だけでなく、住民の巻き込みが十分ではない
プレイヤー間の関係性	⑤	連合関連プレイヤー内／間の風通しが十分に良いとは言えず、アイデア出しや施策の実行にあたり制約が生じている

現状分析：ヒアリング（17名）からの仮説課題と検討候補

仮説課題：「解く課題」の候補

- | | |
|---|---|
| ① | 『連合の理念』や『連合の役割』に関する改めての共通認識や相互理解の促進 |
| ② | 連合のブランド力向上に資する活動の拡充 |
| ③ | 連合の強みであるネットワークを生かした、加盟町村地域同士の交流の場の拡充と「仲間意識」の醸成 |
| | 連合に加盟している価値を高めるための連合自体の知名度向上 |
| ④ | 「美しい村」であることを住民が認識し、主体的・自発的な町村づくりを進めるための仕組み作り |
| | 「継承」「関係人口」（町村地域外との関係性）といった観点を、より意識した取組みを進めるための仕組み作り |
| ⑤ | 連合の関係者間での風通しの良い雰囲気醸成・環境作り |

本プロジェクトでは、
今後、①～③の課題を
対象に、

- ✓ 課題の具体化
- ✓ 解決策の検討

など、進めていくこと
とさせていただきたい

- ④：①～③が一定の状態になっていないと、住民（関係人口も含む）に対して、思いや活動を自信をもって働きかけられない
- ⑤：①の「共通認識」や③の「仲間意識」といったことが、前提の一つともなる

最終調査：書面アンケート概要

対象：全加盟町村地域（61町村地域）

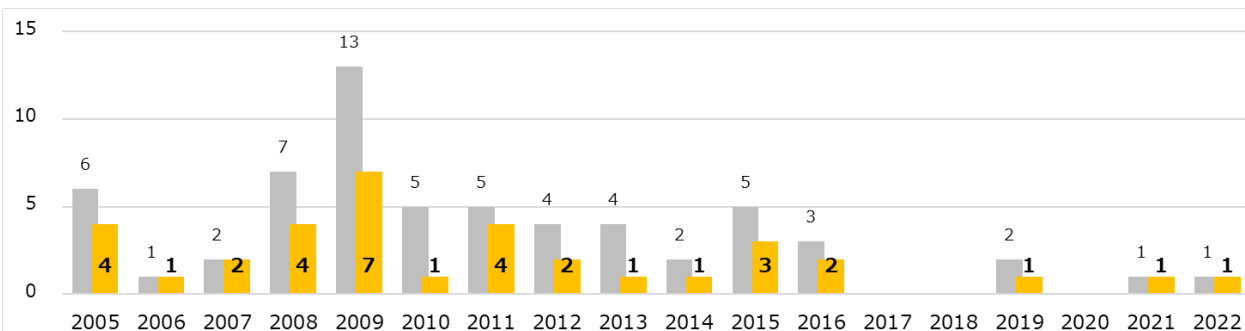
調査期間：2022年12月16日～2022年12月28日

回答数：36 町村地域（回答率 59%） 40名

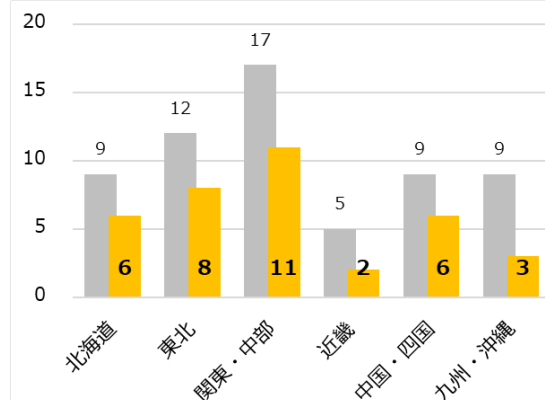
同一町村地域での複数回答 4

町村地域不名（関東・中部） 1

回答分布：下表のとおり（左：加盟年別、右：ブロック別）



(凡例) 町村地域数 ■ 加盟 ■ 回答



最終調査：概要と考察

- 中間報告時に設定した3つの課題（検討候補）について、
書面アンケート結果より、**加盟町村地域も大方同じ認識**を持っており、ズレがないことを確認
- 課題①（理念や役割の明確化）**が他の課題の前提にあり、先に解決すべき課題と認識

仮説課題：「解く課題」の候補

①

『連合の理念』や『連合の役割』に関する改めての共通認識や相互理解の促進

②

連合のブランド力向上に資する活動の拡充

③

連合の強みであるネットワークを生かした、加盟町村地域同士の交流の場の拡充と「仲間意識」の醸成

連合に加盟している価値を高めるための連合自体の知名度向上

書面アンケートからの考察（仮題の確からしさ）

理念について一定の理解はあるものの、**町村地域の役割については回答に濃淡がある**ことを確認（Q13）

「美しい村連合」の**広報、PR活動**や、加盟町村地域への視察、学び合い、商品などのコラボレーションを含めた**地域間連携**について拡充余地があるとの認識を持つ町村地域が一定数存在（Q13,14,15）

①にて連合の理念や役割について相互理解を促進することにより、
連合と町村地域が役割分担の下、

②③を解くために必要なアクションを主体的に実施する土台 ができる

議題



－ 過程 －

- プロジェクトの要件
- チームの取り組み

－ 成果 －

- 課題解決のStep 1～3
- ワークショップ設計
- Web要件
- 自発・自律・持続サイクル

解決策の全体像



Step 1

共通認識・相互理解

ワークショップを通じて、
連合加盟価値の「再考・認識」

Step 2

実行・成功体験

各種アクションの実行と成功体験を
通じて、連合加盟価値を「実感」

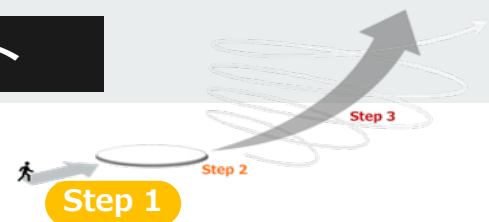
Step 3

継続・発展

「美しい村」としての
「自発・自立・持続」サイクルの
実践と定着化を通じて、
連合加盟価値の「維持・拡大」

<1> ワークショップでの連合活動共有、町村地域を繋げるプロジェクト

Step 1 : 「解き方」の提案 <1-①>



「連合の理念」の姿に向けて、
共有から行動を促進していくワークショップをご提案します

この繰り返しが「連合の理念」にある姿へと導いていく

← 促進 →

ワーク
ショップ

← 拡大・発展 →

ワーク
ショップ

共有

行動

定着

共有

行動

情報収集・
課題共有

仲間意識醸成
ステージ

共有を自分事化
主体性

実行に移る
ステージ

行動が定着

町村地域の
自立が強まる
ステージ

情報交換
アドバイス
(双方向)

視野視座があがる
ステージ

共有・
アドバイスを
ブラッシュアップ

拡大・発展の
ステージ

<理念>

地域に誇りを持ち
将来にわたって
美しい地域づくり
を行い、
活性化と自立を
住民自ら推進する
精神が根付く

↑
今まで取り組まれてきた部分

議題



－ 過程 －

- プロジェクトの要件
- チームの取り組み

－ 成果 －

- 課題解決のStep 1～3
- ワークショップ設計

- Web要件

- 自発・自律・持続サイクル

Step 2 : 「解き方」の提案 <2>

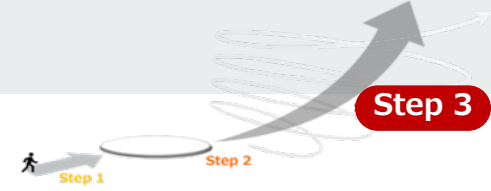


サイト訪問者	観光客	自治体	サポーター
ニーズ	美しい風景を見たい 知らない村を訪れたい	村づくりに課題があり、解決の 糸口を探している	村づくりの支援をしたい 未来の日本（町村地域）に 興味がある
サイト コンテンツ	・ 加盟町村地域の風景・概要の 紹介 ・ 各町村地域サイトへのリンク	・ 町村地域の活動をカテゴリー 別で紹介 ・ 加盟メリット (インタビュー)	・ 相談から支援までの流れ ・ DAO／トークン
ポイント	メジャーな観光地では味わえ ない、『美しい村』ならではの ストーリー を発見、記事化する	加盟のビフォー／アフターのス トーリー（記事）により、 自町 村地域の未来をイメージ できる	サポートが実感できる ような 仕組みが作りきたい

サイト訪問者のニーズから、該当ページまでたどり着く時間を短くして、ストレスのないUXを意識したい。
そのために、カテゴリー分けやタグを効果的に用いたい。

何よりも、**更新性を高め、生きたサイトであることを示してリピート訪問へ**繋ぎたい。

Step 3 : 美しい村の「自発・自立・持続」サイクル



実践へ：日本で最も美しい村連合 担当者会議

－ 4/27議題 －

- 連合が目指すものとは
- 美しい村活動の共有
- ワークショップ：
町村地域の活動の棚卸をする！
 - ・ 個人ワーク
 - ・ グループワーク
 - ・ 全体での共有

－ 4/28議題 －

- 2023年度事業について
- 広域連携について
- サービスグラント プロボノについて
- ワークショップ：
行動計画をたてる！